

第2商港区の活用により 輸送コストが大幅に削減

しらおい

file07

白老港

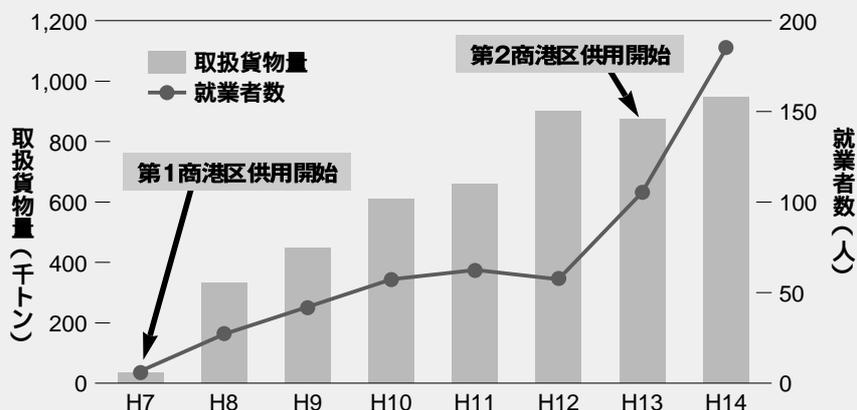
対象施設 第2商区内貿ターミナル 岸壁(-7.5m)等
供用 平成13年

平成7年に第1商港区の供用開始により、関東地区向けに良質で安価な粗砂の移出が開始され、取扱貨物量が54万トンまで増加。また、平成13年には第2商港区が供用を開始し、白老港からコート紙の移出が可能となったため、陸上輸送距離が約40km削減され年間約1.2億円*の陸上輸送コストが削減された。このほか、第2商港区の活用によって、砂・砂利関連企業で約80人、紙製品関連企業で約90人等、新たな雇用が約200人発生し、地域の産業の活発化をもたらしている。

*北海道開発局算定



●白老港貨物量と就業者推移



●第2商港区の紙製品船積み状況

